

일어나 예수 그리스도의 빛을 발하자
立って イエス キリストの光を放とう
(이사야 60:1, 마태 5:6)

東北地方宣教を 위한 協議会

関東地方会와 大韓監理会中部年会가 可能性模索



心を 모으고 있다.
지난 八月三日(二四)에 東京教会會場所로 하
여 가진 協議會는 基監中
部年会에서 崔基監監督
과 이종복監督을 중심으로
한 年會의 日本宣教會會
員八名이 參席하였고, 關
東地方會에서 宣敎協力
委員과 宣道部員 등 十一
名이 參席하여 一泊二日
間 講演 및 報告, 發題, 討
議를 통하여, 東北地方
宣敎를 위한 必要性和 可
能性을 찾아낸 貴重한 모
임이었다.

宣敎師로 本國에서 派遣
한 五名(基長二名, 基監一
名, 基監一名) 中一名은
三個月間 滯留하면서 岡
山教會를 開拓한 그 當時
를 回顧하면서 뜻깊은 講
義를 하였다. 그 當時에 五
名의 短期宣敎師가 開拓했
던 立川, 靜岡, 桑名, 岡山,
佐世保 中에 唯一하게 自
立하는 教會로서 發展한 教
會가 지금의 岡山教會인 것
이다.

저녁식사후에는 監理教
團 派遣 宣敎師로서 現在
東北의 仙台教會에서 牧會
하고 있는 金致福牧師의 宣
敎報告를 들었다. 金致福
牧師는 總會百教會 設立運
動의 一環으로 宮城県에 仙
台教會를 開拓하였으며 關
東地方會와 接속해서 青森
縣의 三沢教會의 開拓과 山
形縣의 山形傳道所 開拓을
위하여 큰 수고를 하였다.

金牧師는 開拓宣敎에 關한
報告와 함께 아직도 東北
地方에는 우리 同胞들이 살
고 있으나 우리 教會가 없
음을 안타깝게 여기어 岩
手縣의 盛岡과 福島縣의 郡
山에도 우리 教會의 開拓이
必要한 것을 強調하였다.
實際로 金牧師는 몇년 전
부터 두 곳의 開拓을 위해
서 祈禱해 왔으며 別墅 礼
拜場所까지交涉해 놓은 段
階에 있으며 이제 그 功
에 가서 일할 宣敎師와 그
를 財政적으로 뒷받침할 本
國教會 後援의 必要性을 懇
切히 要請하였다.

이튿날 關東地方會를 代
表하여 書記 洪性完牧師가
發題하였다. 洪牧師는 自
身在 日新一世로서 經驗
과 在日同胞의 世代變化 및
意識構造의 變化, 그리고
新一世代와 葛藤을 말하
면서 在日大韓基督敎會
하에서 在日大韓基督敎會

의 宣敎的 課題와 特別 關
東地方會의 具體的인 宣敎
를 위하여 本國教會와의 宣
敎協力의 重要性和 必要性
을 強調하였다.
中部年會의 發題者로서
는 최성용牧師가 發題하였
다. 崔牧師는 發題를 通하
여 過去에 李樹廷이 日本
에서 예수님이 聖書의 一
部을 翻譯하여 初期 宣敎
師들이 가져오게 하였고,
日本人 乘松雅休牧師가 朝
鮮宣道를 위하여 왔던 事
實들을 불매에 어떤 의미
에서 韓國은 日本에게 福
音의 빛을 줬다고 할 수
있으며 이러한 빛을 값기
위해서도 日本宣敎는 해야
한다고 強調하였다.
全體討議에서는 質疑와
답답이 있었으며, 兩教會
가 東北地方 宣敎를 위하
여 協力할 것에 意見을 모
았으며 具體的인 方案을 위

하에 第二次協議會를 九月
十六日(十七日)에 仁川에
宣敎會會長 黃昌勳牧師의
說敎로 意味있는 宣敎協議
會가 마쳤다.

全協夏期修養會開催

二世牧師と共に新しいアイデンティティ模索

八月十一日から十四日にかけて、愛媛県の竜王荘で第四七回全国青年會夏期修養會が行なわれた。

まず開會礼拝で、下関教會の金健牧師から「心が熱くなった時があったのではな

いか」という題で、心が熱くなるような修養會にして

くださいというメッセージを受け、修養會の幕が開か

れた。その後、代表である崔炯仁君から全協發題が行なわ

れた。今年度の主題「胸に希望、両手に人」副題「新

しい在日キリスト者として變化する行動」を掲げ、發

題の中で、自らを問うてこ

る。その後、代表である崔炯仁君から全協發題が行なわ

れた。今年度の主題「胸に希望、両手に人」副題「新

しい在日キリスト者として變化する行動」を掲げ、發

その関係性が生まれるのであ

り、関係性の連続を築いて

いくからこそ共同体として

何かを成す力を持つてい

る、と述べた後、「今の全協

青年は、様々な「不安」を

抱えている。昔のような社

会的抑圧から与えられる不

安でなく、人が集まれば増

強していく不安ではない

か」と発表し、本人自身も

「在日として」という痛み

より集団からの孤立のほう

が怖かった、と証した。そ

のような体験を踏まえ代表

は「自分に向けられた憎し

みや無視を感じ取るその敏

感な感受性と同じ感覚で、

自分に向けられた愛情を感

ず、と語った。

その後、その發題をもつ

て分団をし、一日目のプロ

グラムは終了した。

二日目はまず午前中に、

川崎教會の金性濟牧師が、

「自分にとって在日とは？

KCCJとは？/イエスキ

リストに生きる新しいアイ

デンティティ」という題で

講演を下された。金性

濟牧師の青年時代に体験し

たことや、今関わっている

桜本保育園での出来事を通

して、ディアスポラである

私たちがどのように生きて

いったらいいのか、そして

個人個人生きてきた道が違

い、アイデンティティを考

える時には「look(根)と

roots(道)と一緒に考え

ないといけない、と話され

た。そして最後に「聖書の

本質的なメッセージとは一

体なんなのか？ 同性愛者

の問題を含め様々な問題を

考えていくときに、九九匹

と一匹の羊の精神で行かな

ければならないのではない

か？ 離れて行った一匹の

羊が九九匹に戻って百匹と

して生きることのできる共

同体を考えていかなければ

ならないか」と語った。

その日の午後は、「伊予

エクスポローラー」と題し

て、町自体が国の指定文化

財である内子町を分団ごと

に探索し、町の人々に様々

な話を聞いた。そのいろ

いろな話をその日の夜の交

流会でみんなでシェアし、

その後肝試しを行なった。

三日目はミニ学習会とし



し修養會は幕を閉じた。
予定していたよりは参加
人数が少なかったものの、
参加した青年全員が、来

年も来たいと声を発してお
り、来年はもっとたくさん
の青年が集まるのではない
かと思う。(報告 金直造)

西部地方青年會が 合同献身礼拝開く

七月十八日午後四時から



明石教會において、西部地
方青年連合會主催の合同青
年献身礼拝(青年主日)が
行なわれ、約二十名ほどの
青年たちが集まった。

礼拝は、高光錫會長の司
會で讃頌歌二六五番を讃美
し、聖書ヨハネの福音書一
・四三・四九節を朗読した
後、李教錫牧師による「来
て、そして、見なさい」と
いう題で説教があった。

それから礼拝後は、夕食
を食べながら主にある交わ
りを深めた。特に今回は、
西部地方會にある青年同士
の深い交わりを持つことを
テーマとし、良き主にある
集いができた。

また、明石教會での西部
地方青年の集いは初めてで
あることもあって、明石教
會の皆さんに感謝すると
ともに、これからそれぞれ
の教會での深い交わりを約
束して無事、恵みのなかで
終えた。

(報告 李教錫牧師)



☆☆☆☆☆☆☆☆☆
フリーダイヤル 0120-369980 Fax 06-6768-7011
(株) ユーアイシー (Elcom 通販事業部)
〒543-0023 大阪市天王寺区味原町13-8(k5ビル)
代表取締役 玄 承 禎 (神戸東部教会長老)